

# 令和 5 年度 行政視察報告

遊佐町議会  
文教産建常任委員会

1. 視察日程

5年10月16日(月)～17日(火)

2. 参加議員

文教産建常任委員会 委員長 松永 裕美  
副委員長 駒井 江美子  
委員 齋藤 武  
委員 佐藤 俊太郎  
委員 本間 知広  
議会事務局(随行)  
係長 船越 早苗

3. 遊佐町議会規則第74条による派遣について

議長に対する派遣承認要求 5年9月19日  
議長の承認 5年9月19日

4. 視察地及び視察事項の概要

(1) 山形県村山市 Link MURAYAMA(リンク ムラヤマ)

廃校の利活用の取り組みについて

平成28年に閉校になった山形県立旧楯岡高校を活用し、民間企業も参画して運営を行っている先進事例。どのような経緯でこの方法に至ったのか、またその運営方法について研修した。

(2) 山形県西置賜郡小国町 小国グリーンエネルギー合同会社

木質エネルギーの地産地消を目指す会社

木質エネルギーを利用したストーブ、その周辺機材や燃料などを販売している。製材所で出る廃棄される端材や、葬儀場などで出る使い残しのろうそくを使った着火剤を福祉作業所に製造依頼している。エネルギーの地産地消や、地域循環させる仕組みについて研修を行った。

(3) 山形県西置賜郡小国町 山形県立小国高校

地域みらい留学の取り組み現状と課題について

遊佐高校よりは後となるが、同じく、地域みらい留学制度を利用し県外から留学生を受け入れている小国高校でそれぞれの課題を共有し、情報交換を行った。また、現在留学生が居住している寮の視察を行った。

## (1) 山形県村山市 Link MURAYAMA 廃校の利活用の取り組みについて

視察日時 5年10月16日(月) 13:00～

場 所 Link MURAYAMA シェアキッチンほか

説 明 者 村山市政策推進課 活性化施設係長 高橋 政則氏

### □村山市の概要

山形県の中央に位置し、東を奥羽山脈、西を出羽丘陵に囲まれ、中央を最上川が蛇行しながら北流している。その流域には肥沃な土地が開けている。

### \*Link MURAYAMA

#### ①概要

県立楯岡高校が平成28年に閉校した跡地利活用の施設として、令和4年7月22日に「村山市にぎわい創造活性化施設 Link MURAYAMA」としてオープン。公共スペースと民間企業が入居する民間スペースがあり、新しい公共施設として多くの利用者が集まっている。

#### ②整備の経緯

平成28年 県立楯岡高校閉校、利活用検討市民会議の設置・開催

平成30年 利活用ワーキングチームの設置、楯岡高校跡地利活用基本構想の策定

令和元年 改修設計

令和2年 山形県から村山市へ土地・建物の譲渡

耐震強度不足の施設の解体、改修工事

令和4年 Link MURAYAMA としてオープン

#### ③視察説明から

##### ○跡地利用に至るまで

村山市には4つの高校があり、そのうちの 하나가楯岡高校だった。村山駅から徒歩圏内の立地で600人ほどの生徒がいたが、ほかにも高校があるため、廃校に反対の声はなかったとのこと。

跡地利用の計画から実際に改修工事に至るまでにかかなりの時間がかかった。利活用検討市民会議の設置をしたが、その時のメンバーは商工会などの立場的に上の人たちが集まったためか、意見は出るが実際に動く人がいなかった。そのため、利活用ワーキングチームを設置して実際に使ってみたいと考えている人たちがメンバーとなり、基本的な構想を作った。

山形県では、県の所有している土地建物を市町村に譲渡した前例がなかったため、その手続きに時間がかかった。



Link MURAYAMA 外観



シェアキッチンで説明を受ける

### ○施設内容

かつてのまちの中心地だった楯岡に「つながり、にぎわい、なりわい」というビジョンのもとに、公共施設と民間事業者が同居する形をとった。

#### (公共スペース)

- ・用途を限定しないでいろいろ使えるようにしている。利用料金は営利目的かどうかで区別せず、一律で設定している。
- ・近隣の東根市や天童市は、手の込んだ子どものための屋内施設を整えているので、ここはあえて、最低限のものだけ設置した屋内施設(旧体育館)や子どもスペースを準備している。どちらも好評で、平日は近隣の小学生が放課後友達同士で宿題をしたり、屋内施設は週末親子連れでにぎわっている。



こどもたちが過ごすスペース こどもラボ



イベント会場にもなるリビング

- ・屋内施設のピロティには、要望が多かった初心者向けのスケートボード設備を作った。加えてグラウンドゴルフができるスペースもあり、冬場でも使える施設となっている。スケートボード施設は、平日も山形市から高校生が来て利用している姿も見られる。



ピロティのスケートボードスペース



小さな子が利用できるような工夫も

- ・防災施設としての機能も兼ねている。地下貯水槽、マンホールトイレがある。屋内広場(旧体育館)は、避難所となり、備蓄庫もあるとのこと。



中庭のマンホールトイレ



避難所にもなる屋内広場

#### (民間スペース)

- ・入居する民間事業者を公募した。内覧してもらい、希望に合う広さの物件を選んでもらった。内装は各事業者で設計してもらった形にした。

当初は入居者集めに苦労したとのことだが、現在は入居希望者が 8 社ほど待っている状況。入居者は、飲食店、ネイルサロン、コインランドリー、ゲストハウスなど様々。現在 19 社が利用中。起業支援もしているとのこと。

- ・民間企業と医師会、村山市が連携したメディカルフィットネスジムがあるとのこと。健康状態の見える化、個人ごとの運動メニューを作成、医師が運動処方する仕組みを構築している。その中で地元人材の雇用も生まれている。

- ・年度ごとに使用申請をして許可を出すという形を取っている。広さに応じた家賃と光熱費を入居者は支払う。敷金、礼金、共益費はない。



メディカルフィットネスジム



コインランドリー

### ○デザイン

高校にあった教壇をシェアキッチンのテーブルに利用したり、床にも学校にあったものを使ったりと、廃材も積極的に利用していた。

トイレや、階数の表示などのデザインにもこだわった。シェアキッチンからリビング、メインの校舎から屋内施設までコリドーという渡り廊下が設置されている。吹きさらしのため、冬場は囲い代わりのビニールカーテンをつけて風雪よけにしているとのことだった。



こだわりのデザイン



屋内広場までの渡り廊下

### ○経費

改修整備費が総額約10億円で、市の持ち出しは2億円とのこと。運営管理費は年間約4000万円を見込み、うち、約1500万円を使用料でまかなっているとのこと。

### ～視察を終えて～

廃校利活用のお手本のような施設に思えた。極力用途を限定せずに、自由に住民が使える施設というのは貴重だ。住民が使いやすいような施設にできたのは、住民性ととも、職員の努力が大きいと思う。アクセスも良く、近隣市との差別化も上手くできていると感じた。

「授乳室」ではなく「親子室」と表記するなど、ジェンダーへの配慮も感じられた。子どもたちのスペースもしっかり確保されている点もとても素晴らしいと思った。

遊佐の廃校になった小学校も、子どものためのスペースが確保されるものであってほしいと思う。

## (2)山形県西置賜郡小国町 小国グリーンエナジー合同会社

### エネルギーの地産地消を目指す会社

視察日時 5年10月17日(火) 10:00～

場 所 小国グリーンエナジー合同会社 ペレットストーブ展示場ほか

説明者 代表 高橋 安以子氏

#### □小国町の概要

人口約7000人の町。山形県の西南端に位置し、朝日連峰、飯豊連峰の山並みに囲まれている。新潟県、山形県それぞれの県庁まで同距離の80キロ。全国屈指の豪雪地帯。地形を利用して、水力発電事業が盛ん。

#### ①事業の概要

2010年にペレットストーブ設置販売、エネルギーの地産地消を目的に設立。木質エネルギーへの理解を広げ、ストーブ販売だけでなく、薪やペレットはもちろん周辺部品、煙突や遮熱板、着火剤などを地元の企業や、福祉作業所と共同で開発して販売している。山形県内でペレットストーブ販売の中心的な役割を果たしている。



展示場の様子



説明者の高橋さんと

#### ②視察説明から

##### ○ 捨てるものから作り出した商品

新潟で同じくストーブ販売を行っている事業者が、開発した着火剤のノウハウをオープンにしているため、その仕組みを小国でも使って着火剤を開発、販売しているとのこと。

製材所が出る木の屑、冠婚葬祭場が出る半端なろうそくとどちらも廃棄物となる材料を使い、着火剤を製作。その着火剤を作るのは、福祉作業所で働く人たちとのこと。捨てるものから商品を開発し、地域で雇用を生み出し、お客様にも喜ばれているとのことだった。福祉作業所にとっては収入が増え、作業員さんにとってもうれしいこととなる。



木の屑と半端なろうそくで作られた着火剤



着火剤のパッケージにもこだわりが見える

### ○地域にあるものを利用する

(森林資源、人材)

- ・小国町は森林資源が豊富で、小国町と隣の新潟県関川村の森林組合、さらには民間業者からも丸太を購入している。その丸太を地域の 70 代～80 代の元気な人たちに、その人たちの作業ペースで一定のサイズにカットし割ってもらい、鉄コンテナに詰めてもらっている。その後一定の含水率まで乾燥させ、1 箱(20kg)から販売しているとのこと。ドア to ドアで、キャンプ場への配達も可能。「モミガライト」という 100%もみ殻で作った燃料も取り扱っているとのことだった。



もみ殻で作られたモミガライト  
遊佐でも製造機を持っている人が  
いるそうだ



薪割り作業場



薪割り機の説明

- ・地元の板金屋さん、遮熱板の加工も依頼している。板金屋さんからは、これまで自分たちの関わった仕事が人の目につくことはなかったが、直接お客さんに見える形の仕事となるためうれしい、という感想をもらったとのことだった。



- ・木質ペレットは松が一番質がよく、燃え残りも少ないとのことで、岡山からそのペレットを仕入れて、10キロに小分けして販売している。小分けする機械は自作したもので、需要期には小分け作業専門のスタッフが活躍する。米沢市の業者が製造する、県内産の木質ペレットの販売も行っている。



岡山から購入しているペレット



ペレットを小分けするための自作機械

(柔軟な対応)

- ・この事業を始めて10年ほどたち、当初から使ってもらっているお客さんからストーブの修理依頼が入るようになった。そのため、修理も受け入れている。

(空き施設の活用)

- ・薪やペレットの保管には、元牛小屋や、製材所だった場所を借りているとのことだった。

右の建物は出入口が大きかったため、木材をはめこんで自分たちに合うサイズの出入口に改装した。



○町のにぎわいづくりと再エネ

毎年、町内のショッピングセンターで町のにぎわいづくりと再エネに親しんでもらうためのエネフェスを開催しているとのことだった。木質燃料系のストーブなどを展示しながら、飲食ブースなども町内外から出店者を集めて開催している。

～視察を終えて～

自分たちが楽しみながら、周りの人も巻き込んで物事を動かしている点を見習いたいと思った。地元にあるものを使って、いろんな形の雇用を生み出し循環させていることも素晴らしいと思う。

### (3)山形県西置賜郡小国町 山形県立小国高校

#### 地域みらい留学の取り組み現状と課題について

視察日時 5年10月17日(火) 13:00～

場 所 おぐに総合開発センターほか

説明者 小国町教育委員会 高校魅力化推進室長 高橋 俊典氏

#### ①概要

町内にある県立小国高校は、かつては普通科と林業科があり、最大定員が 200 名で寄宿舎が使われていたこともあった。だが、現在は在校生 70 名と小規模校になっている。遊佐高校と同じく高校魅力化推進事業を取り入れ、4 年度から留学生を受け入れている。「地域みらい留学 365」の 1 年間と、「白い森留学」の 3 年間留学する 2 つを用意している。

#### ②視察説明から

##### ○生徒の割合

米坂線が豪雨被害のため不通となっている状況や、隣接する市町村への交通が冬季の積雪量もあり大変であることから、小国町内の中学校卒業生のうち 4 割が小国高校へ進学する。

現在の留学生の割合は全校生徒のうち 2 割とのこと。2 年生は 24 名のうち 1 年留学が 3 名、3 年間の留学生が 5 名。1 年生は 27 名のうち 5 名が 3 年間の留学生である。



小国高校のポスター



視察説明の様子

##### ○学校の特徴

##### (学びのカリキュラム)

・小国町の文化を生かしたカリキュラム作りをしている。1 年時は「地域文化学」として自分のやりたいことを見つけ、2 年時は「地域実践学」として地域の大人も巻き込みながら自分のやりたいことを実践。3 年時は「地域構想学」として、1, 2 年時に学んだことをまとめていく段階にしている。

##### (外部講師)

・地域の人を講師に招いて授業を行っており、30 人くらいの外部講師がいるとのこと。午前中にお話

を伺った小国グリーンエナジー合同会社の高橋さんも、家庭科の授業で染物の授業を年に 3~4 回担当している。

#### (全国高等学校小規模校サミット)

・平成 30 年度から、全国高等学校小規模校サミットを開催している。この日に向けて生徒たちはコアメンバー会議を開催し、コミュニケーション研修やファシリテーション研修も受けて、準備をする。そして、後日、交流のあった小規模校をめぐる研修旅行を行っているとのことだった。

#### (部活)

・高校の部活はないとのこと。地域の大人たちのサークルに参加したり、地域の大人や先生を講師に招いて活動したりしている。運動部系は、フットサル、空手、剣道など。文科系は、おぐまん塾(英検対策、小論文対策など)、フォト、畑など選択肢はかなりあるようだった。開催頻度がそれほど多くないので、かけもちすることが可能。

#### ○卒業後の進路

留学生の卒業生はまだ出ていないが、これまでの卒業生は小国町内への就職率が高い。4 年度は、進学、就職半々だった。留学生は進学を希望する生徒が多いため、小国高校で進学に向けてできることとできないことを、予めはっきりと伝える必要があるとのことだった。

#### ○留学生の滞在方法

##### (2つの選択肢)

・町内の民家に下宿する、または寮という二つの選択肢がある。

男子生徒は下宿をしているとのこと。現在寮には女子生徒 5 人が滞在している。建物は民間企業から、寮に使わないかと申し出があり改装して使うことのこと。2 階が女子寮になっていて、最大 9 名滞在可能。1 階は、食堂と男子寮予定スペース(最大 7 名)となっている。居室は個室でユニットバスが付いていて、トイレが共同となっている。寮は高校まで徒歩 15 分、小国駅まで徒歩 7 分と便利のいい場所にあるそうだ。自転車も貸し出しているが、全員徒歩通学している。



寮の建物外観



1 階食堂



2階個室



2階の共用スペース

#### ○留学生の見守り体制

現在コーディネーター2名、アシスタント、寮のハウスマスターが配置されているとのこと。ハウスマスターは18時30分～6時30分まで滞在し、朝食と夕食を準備している。

#### ○地域留学の課題

全国的に地域留学生を募集する高校が増えたために、生徒募集が開始した翌年からは難しくなったと感じているようだ。また、留学生に関わる町民が固定化しているとのことだった。

#### ～視察を終えて～

遊佐高校と課題は似たようなところがある。ただ、寮が整っていることが遊佐とは違う点だ。寮が集約されていることによってハウスマスターにかかる費用を抑えることができるのは、大きいと思う。

一方、交通事情や地理的な制約から、小国高校への小国町内からの進学率が高いという説明には、現地を見て納得がいった。小国高校を存続させたいと小国町が力を入れるのは、当然だろう。